



ビジネスを変え、持続的な企業成長へと導く、 リアルタイム・アナリティクス

— 基幹業務と分析業務の融合

データをビジネスに活用する戦略的なデータ分析が企業の競争優位を大きく左右する時代です。過去に蓄積したデータを分析するだけでなく、“現在”起きている事象を瞬時に分析し、顧客サービスの向上や業務の効率化を図る「リアルタイム・アナリティクス」が今、注目を集めており、既に確実な成果をあげている企業も続々と登場しています。

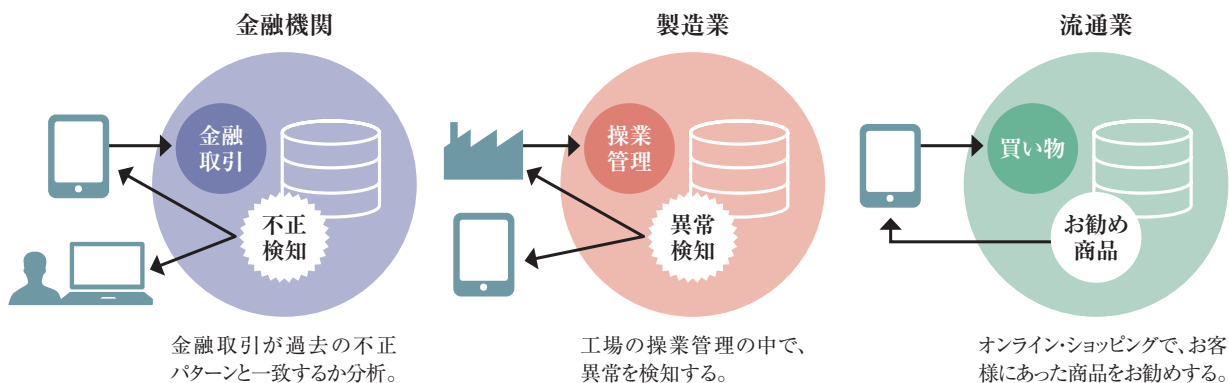
その実現には、刻々と発生する基幹業務のトランザクション処理と膨大な基幹データとその最新データに基づく分析処理の融合が必要不可欠であり、それを支えるテクノロジーも確立しています。最新テクノロジーによるリアルタイム・アナリティクスは、競合他社との差別化を図り、持続的な企業成長へと導きます。



基幹業務のトランザクション処理と データ分析処理を融合する

リアルタイム・アナリティクス

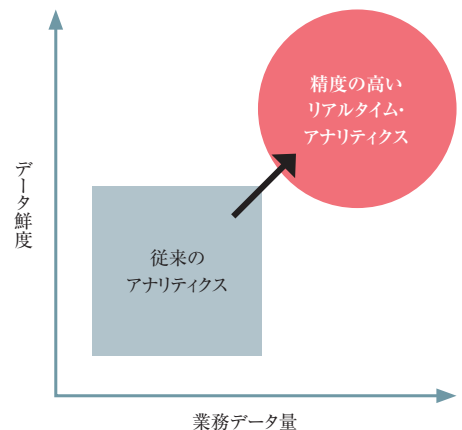
リアルタイム・アナリティクスの活用例



業務の後で行っていた これまでのアナリティクス

これまでのアナリティクスは、①データ抽出、②データ蓄積、③データ分析という3つのステップで行うのが一般的です。すなわち、データの発生源である基幹システムなどから、レプリケーションやバッチ処理によってデータを抽出し、データ整理やクレンジングをした上で、データウェアハウスなどのデータ分析専用のデータベースにデータを蓄積した上で、分析していました。こうした分析方法では、分析を始めるまでに時間的がかかり、分析する時点では既にデータの鮮度が落ちていることになります。

Before



業務フローの中で、 過去の膨大なデータに基づいて行う リアルタイム・アナリティクス

データ活用ニーズの高まりとともに、刻々と発生しているトランザクション・データを処理しながら、その最新のデータと過去の膨大なデータを分析することで、適切なアクションを起こしたいというニーズが生まれてきています。つまり、業務の後で分析をするのではなく、業務フローの中でリアルタイムにアナリティクスを行うということです。

これを実現するのが、IBM z Systemsです。トランザクション処理とデータ分析処理を融合し、精度の高いリアルタイム・アナリティクスを実現します。

After

Case 1

リアルタイム・アナリティクスで「金融機関」が変わる

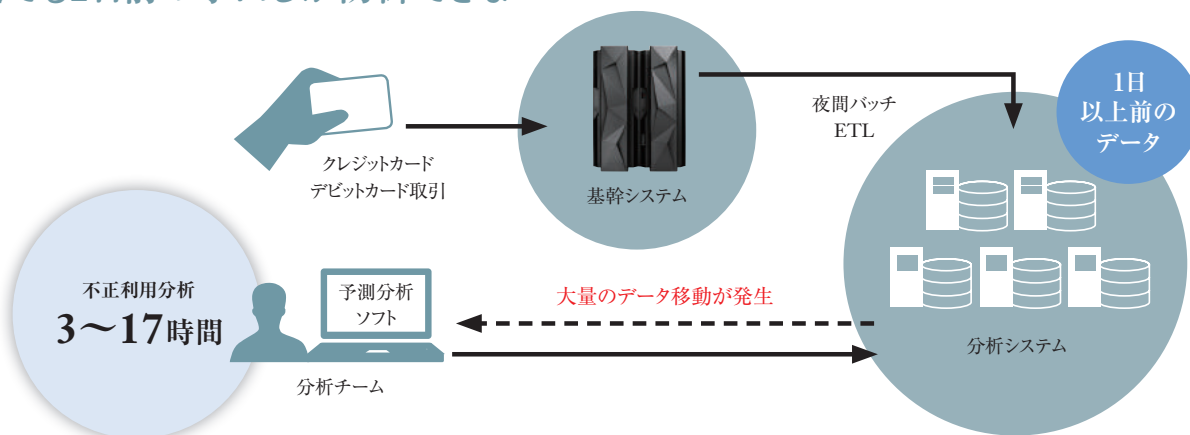
今日発見した不正手口を防御

欧州のA銀行では、最新の不正手口を防御するためにリアルタイム・アナリティクスを採用し、約20億円の効果をあげています。従来のアナリティクスでは、最速でも2日前までの手口しか防御できませんでしたが、リアルタイム・アナリティクスにより、直近のデータに基づき、今日新たに発見された手口も阻止することが可能になりました。

これまでのアナリティクス

Before

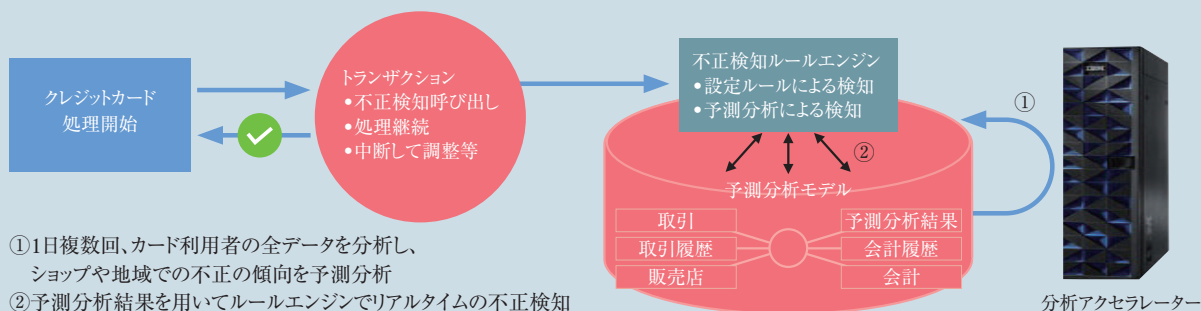
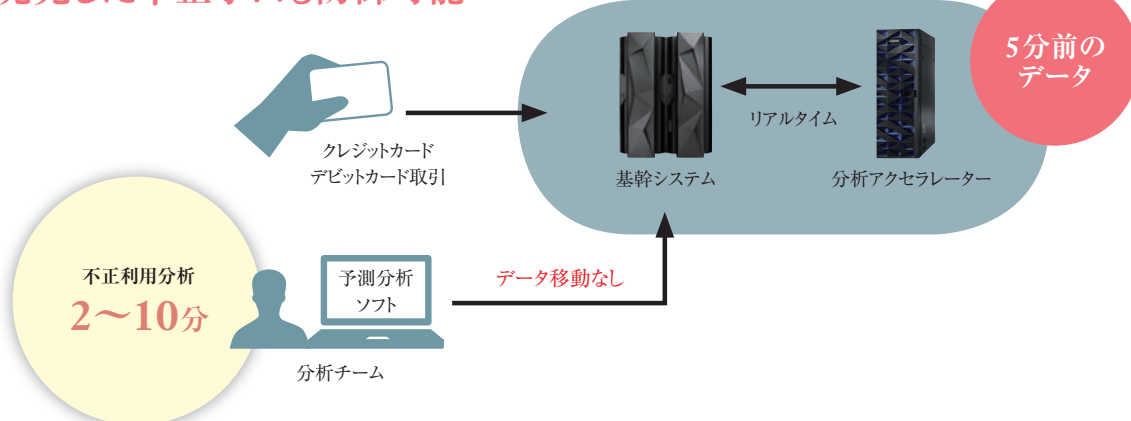
最速でも2日前の手口しか防御できない



リアルタイム・アナリティクス

After

今日発見した不正手口も防御可能



リアルタイム・アナリティクスで「流通業」が変わる

優良顧客の購入履歴から、お勧め商品を提示

優良顧客だけでなく、全てのお客様に対して、レジでそのお客様にぴったりの商品をお勧めしたいと考えたB社。

B社は膨大な量の販売履歴や取引情報を蓄積していましたが、既存の分析システムは、大量かつ高速な分析処理に耐えうるインフラではありませんでした。

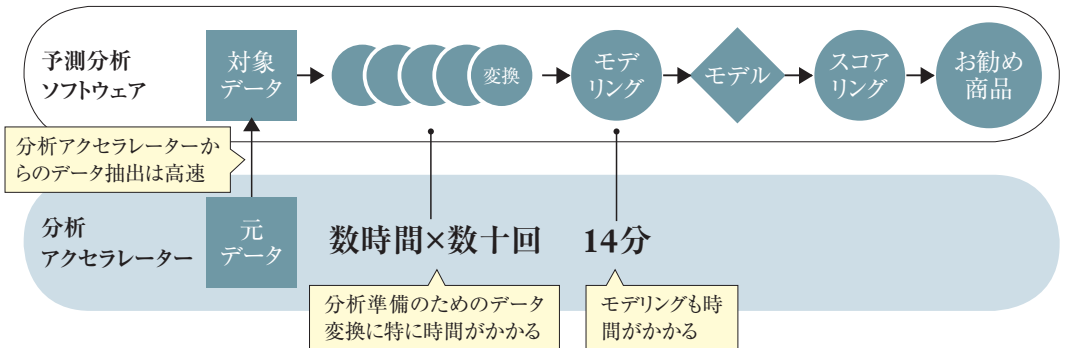
そこで、鮮度を圧倒的に高めるため、基幹システムと分析システムを融合し、リコメンデーションに必要となる分析時間を99.8%削減。基幹システムで300件/秒の処理をこなしながら、2秒以内でお勧め商品を提示することができるようになりました。

これまでのアナリティクス

Before

データ変換やモデリングなどに時間がかかる

キャンペーン最適化など、数千万レコードの全量分析を行うと1週間かかり、分析回数が限られていた。分析準備のためのデータ変換や加工処理が分析処理全体の80%を占める。



リアルタイム・アナリティクス

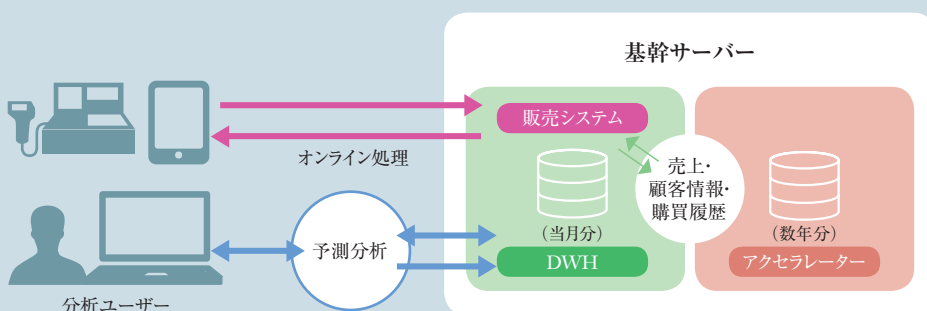
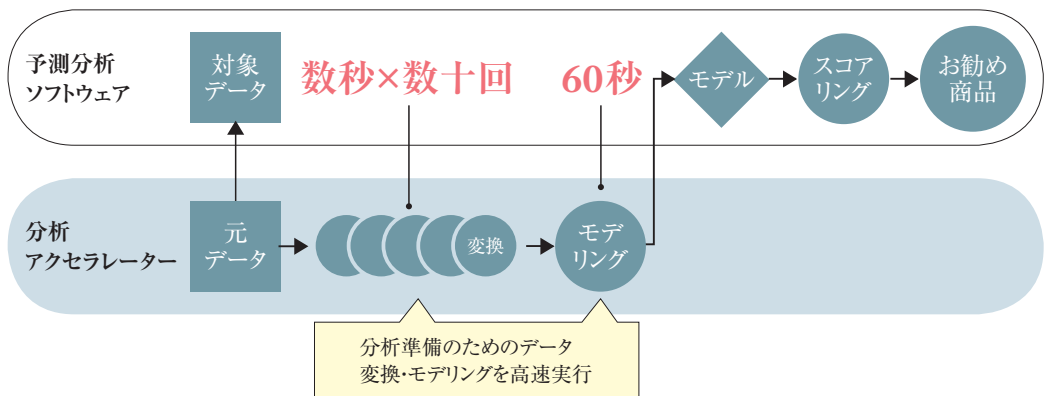
After

データ変換時間を大幅に短縮し、分析時間全体が99.8%削減。

最新データで予測モデルを頻繁に更新し、より精度の高いお勧め商品を2秒以内で提示

最新のアクセラレーター機能でデータ変換が最大250倍、モデリング処理が数10倍高速化。

これまで1回の分析に1週間かかっていたのが、1日に何度も分析できるようになり、最新データを駆使してより最適なお勧め商品の提示が可能となる。

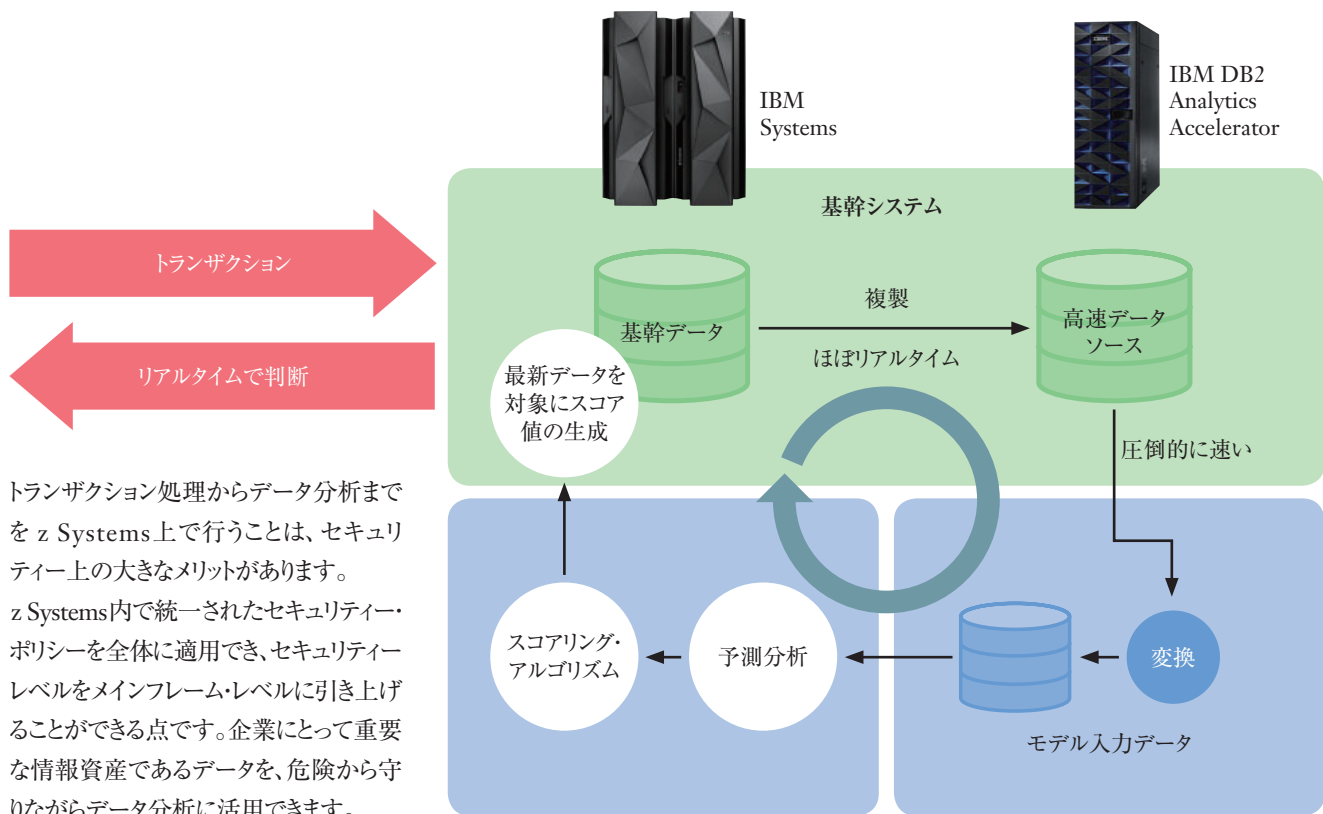


- 店舗からの販売データを蓄積。アクセラレーターをフル活用し、分析時間を99.8%削減
- 会員情報や購買履歴から2秒以内でリコメンデーションを判断するアップセル・クロスセルにより売上高を5%増加

基幹業務と分析業務の一体化でビジネスに貢献

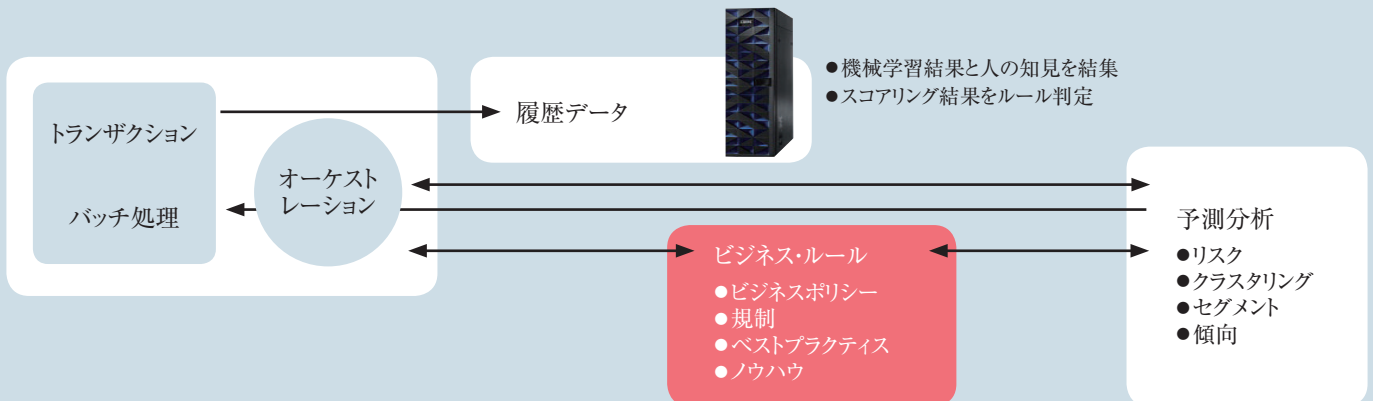
IBMが切り拓く 次世代型アナリティクス

IBM z Systems上のDB2専用のアクセラレーターであるIBM DB2 Analytics Accelerator(IDAA)によって、z Systems上のDB2と本格的なアナリティクスに対応するために開発されたデータ・アプライアンスであるPureData System for Analyticsをシームレスに連携することができるようになりました。さらに、リアルタイム・アナリティクスに必要な予測分析やデータ加工もデータベース内で処理できるようになり、分析に必要な一連の機能を一つのシステムでエンドツーエンドで提供します。



トランザクション処理からデータ分析までを z Systems 上で行うことは、セキュリティ上の大きなメリットがあります。z Systems 内で統一されたセキュリティ・ポリシーを全体に適用でき、セキュリティレベルをメインフレーム・レベルに引き上げることができる点です。企業にとって重要な情報資産であるデータを、危険から守りながらデータ分析に活用できます。

さらにビジネス・ルールを組み合わせ より高度なリアルタイムの意思決定を実現



「基幹業務と分析業務の融合」のための 3つの原則

データの一意性

従来のアナリティクス基盤は、データ転送を繰り返し、データ鮮度と信頼性低下を招いていました。データを発生源の近くで蓄積することで、分析のスピードと信憑性が増します。

セキュリティ

個人情報や取引情報を扱う場合、セキュリティ対策は不可欠です。セキュリティが設計思想に組み込まれた基盤を選択することで、データ漏洩リスクと対策コストが大幅に軽減されます。

堅牢性

分析基盤は、いまや企業戦略の根幹です。分析結果を素早く業務にフィードバックしビジネスに役立てるには、データが必要な時にシステムが稼働している必要があります。

お問い合わせ

このカタログの情報は2015年8月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。サービスや製品の詳細については、弊社の営業担当員にご相談ください。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、DB2、IBM z Systems、z Systems、PureDataは、世界の多くの国で登録されたInternational BusinessMachines Corporationの商標です。NetezzaはIBM グループ会社の IBM International Group B.V. の登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。



日本アイ・ビー・エム株式会社
www.ibm.com/z13japan